

環の経済の再発見（前編）

－これからの日本経済及び社会の指針－

1. 「環の経済」の鼓動

1) 成熟経済と「環の経済」

前回のバブル崩壊に続き、昨年から今年に掛けて、世界的金融恐慌と同時に再び（ミニ）バブル崩壊の深刻な事態を経験した日本経済は、これまでの大量生産・大量消費経済を支えた自由競争及び市場原理主義の体制から持続・循環型の成熟した社会経済システムを構築する必要に迫られます。

少子化や高齢化と人口減、財政苦境に陥った成熟した経済状況のもとでは経済のパイは限られます。成長やバブル経済下では許容された、リスク、甘さ、そして独善性を伴う行為は成熟経済下では通用し難くなります。日本経済を細い水の流れ（限られたパイ）の環（わ）に例えれば、その各々の構成員が互いに協調し合いながら、清らかで生き生きとした水とその流れを維持し、出来得れば、少しでも大きくなるように努力することが大切です。構成員の何れかが自分だけ浮利を得ようと独善的行為をなせば、せつかく溜め得た水もいつかは腐ってしまうでしょう。思いやり、相互扶助そして共存共栄の精神に支えられた共生の理念にもとづく「環の経済」社会が求められます。

「環の経済」の構成員は、清らかな水の循環をいつまでも維持することを可能とする十分な素養を備えていなければなりません。その行為には個々の責任と尊厳、そして相互の信頼や公正さも求められます。そこでのヒト、モノ（サービス）、カネ、そして情報の流れ（Flow）もこれらの規範に合致したものでなければなりません。「環の経済」は日常生活における近隣や町の人々、都会と地方や農村との関係、企業活動では、株主、経営者そして従業員、取引先や顧客、下請け、そして時には競合相手との関係にも形成されます。小さな環が他の環と融合し、さらに大きな環をつくることもあります。エネルギーや鉱物資源が限られ、水、自然環境そしてヒトを主要な資源とする日本には、しっかりした「環の経済」の形成とその持続的運営が何よりも大切です。そこに、成熟社会に相応しい、健全で活力があり、思いやりのある共生社会、そして新しい技術や産業そして社会システムが生まれるはずで、その為には、国民一人一人、企業、組織や団体そして地域社会やグループ（これらも“構成員”という）の意識改革と目標に向かっての情熱や汗そして団結や協調が必要です。

地方や中央の政治や行政の重要な任務の一つは、市民や国民の安心安全な生活の為に「環の経済」の健全な形成と円滑で公正な運営を支援することです。公共の投資やサービスも、その為になされ提供されなければなりません。大きな変革の目標と戦略を打ち立て、そのグランドデザインの構築と具体的スキームの設計をし、情熱を持って実行に移す任務も必要です。まさに、これが今日の中央及び地方の政治や行政に求められているのかもしれない。

2) 「環の経済」とその基本理念

“思いやり”や“相互扶助”、そして“共存共栄”や“共生”の精神は、ある面では、甘くて消極的な社会を想像させるかもしれません。「環の経済」は、合理的かつ公正な自由や競争、チャレンジ精神、切磋琢磨する努力、また、ヒト、モノ（サービス）、カネ、情報のフローにおける合理性や効率性を否定するものではありません。むしろ、これらを遵守したうえで、健全で活力に満ちた「共生」社会を実現することです。“三人寄れば文殊の知恵”という言葉があります。また、“一人では50%、二人で100%、三人集まれば500%達成できる”ともいいます。これらは、「環の経済」の相互扶助や共存共栄そして共生の原点です。成熟した経済のもとでも、「環の経済」が効果的に機能すれば、優れた生産性や大きな経済価値を生み出すことも可能です。

構成員各自が、責任や尊厳そして共生の精神を持って「愛情」と「汗」を注ぎ、「環の経済」の形成や持続に「切磋琢磨」努力する為には、その能力を十分に発揮できる環境整備も必要です。また、不合理で不公正そして過度な規制や統制は障害となります。一方、何でも自由はあり得ません。複数人間よりなる社会では、個の自由には常に責任が伴うと同時に社会的存在としての尊厳も求められます。また、相互の信頼や社会に於ける公正さも大切です。自由を得るうえでの個の責任は、自分勝手のことをせず、他を“思いやる”ことにも通じ、これが、共生の精神そして「環の経済」の理念の原点ともなります。これが効果的に機能してこそ、健全で公正な社会的秩序のある人間尊重の「環の経済」社会が形成されます。

社会や組織の全ての構成員が、“責任”や“尊厳”そして“思いやり”や“共生”の精神を、同一に持ち合わせることはあり得ません。不合理で不公正な独善的行為や過度な規制やコントロールが経済や社会の環境や仕組みを歪め、構成員が責任や尊厳を守りながら自由を行使しようとしても、有効に機能しないこともあります。市場原理主義や新自由主義の“見えざる手”も効かなくなり、その本来の方向性を見失うことにもなります。「環の経済」には、合理的で公正な規制やルールも必要です。

以上

平成 21 年 12 月 6 日
草刈啓一